



薬の保管について

～特に夏場は要注意～



薬の保管方法の原則

医師や薬剤師等から、薬の保管方法について特に指示があった場合は、それを守ってください。保管方法は、薬の説明書や袋などにも書いてあります。特に指示のない場合、薬は「室温」で保管しましょう。直射日光を避け、なるべく湿気の少ない涼しい所に保管してください。シートに入っている錠剤等はシートから出さずに保管しましょう。薬の中には湿度や光に特に弱く、使用前にシートから出さなくてはならないものもあります。また、軟(ソフト)カプセル(液状やペースト状の成分が入った球形や楕円形のカプセル)の中には、高温多湿で軟らかくなるものもあるため特に注意が必要です。

「室温」とは？

室温とは、1～30℃をさします。薬の保管方法は、医薬品の規格基準書である「日本薬局方」で、以下のように定められています。

室温 1～30℃ **冷所** 1～15℃ **常温** 15～25℃

なぜ、光、湿気、高温を避けて保管しなくてはいけないのか？

薬が光や湿気、高温によって変質し、十分な効果を期待できなくなったり、体に思わぬ有害な影響を与えたりする可能性があるからです。

特に夏場は、気温が高くなり、日差しも強くなるので、薬の保管には要注意です。窓側の日の当たる場所や、屋外に駐車した車の中などでは、かなりの高温(50℃以上)になるため、薬をそれらの場所に置いたままにしないよう注意しましょう。

夏場は室温が30℃を超えることもあると思うが大丈夫か？

室温で保管する薬は原則として30℃を超える温度では保管に適しません。夏場の数週間の間、昼間を中心に30℃を超える程度であれば、問題ないでしょう。室温で保管する薬の多くは、保存条件を確かめる試験において、40℃で6ヶ月以上安定であることが確かめられています。家の中でより涼しい場所があれば、そちらに保管するのでも一方法です。ただし湿気が多い場所は避けましょう。なお、室温で保管する薬は、冷蔵庫での保管には向いていません。冷蔵庫で保管すると、薬によっては結露で湿気を吸ってしまうからです。

薬の保管時に気をつけたいポイント

光

- 多くの薬は光(紫外線)によって分解されてしまいます。
- 光を遮断できる場所(容器)に保管することが大切です。
- 遮光の必要のある目薬は、必ず付属の袋に入れて保管しましょう。

温度

- 高温の場合は、薬が分解する速度が速くなります。
- 「冷蔵庫(冷所)で保管してください」と指示のあった薬(シロップ剤、一部の坐薬、一部の目薬、未開封のインスリンなど)は冷蔵庫に保管してください。
- 冷蔵庫で保管するよう指示のあった薬でも、0℃以下での凍結は避けなければなりません。凍結すると、薬が変化し、室温に戻しても元に戻らない場合があります。

湿度

- 薬は高い湿度によって、変色したりすることがあります。特に、粉薬や顆粒は湿気の影響を受けやすく、時には固まったりすることもあり、注意が必要です。
- 薬はなるべく乾燥した場所に置きましょう(キッチンや洗面所などには置かない)。乾燥剤を入れた缶に密閉して保管する方法がおススメです。

その他

- 小さいお子さんがいる場合には、薬を手の届くところに保管したり置きっぱなしにしたりしないように注意しましょう。
- 誤飲などを防止するため、薬以外のものと区別して保管しましょう。
- 薬を他の袋や容器に入れ替えると内容や使い方がわからなくなります。袋や箱、説明書は薬と一緒に保管しましょう。
- 誤ってシートごと飲み込むことを防ぐため、シートを1錠ずつに切り分けて保管しないようにしましょう。

薬の使用期限について



病院から処方された薬は、特別な指示がない限り、処方を受けた日から指示通りに使用して使い切る日までということになります。飲む必要がなくなった薬や飲み忘れなどで残った薬は捨てましょう。

処方された薬は、その時のその人の症状に合わせて出された薬です。時間がたって、同じ症状だからといってまた飲んだり、他の人にあげたりするのは止めましょう。

普段飲んでいる薬が余っている場合や、必要な時だけに使用する頓服薬(とんぷくやく)の場合は、以下が目安です。保存状態、薬の種類によっても異なるので、ご不明な点は薬剤師におたずねください。

錠剤・カプセル剤(シートに入ったままの状態)

通常は半年～1年程度。

中には湿気を吸いやすいものなどもあります。

坐薬(未開封のもの)

半年～1年程度。

なお、坐薬は先端部(丸みがあるほう)が下になるように保管しておくといいです。

目薬

未開封なら、記されている使用期限まで。

開封したものは、保存剤が入っていないものは10日程度。保存剤が入っているものは1ヶ月程度。

インスリン

未開封なら、冷蔵庫保存で、記されている使用期限まで。

使用中のものは、結露を避けるため室温保存で。使用期限は、製剤ごとに決められています(ヒューマログN注は18日、それ以外については少なくとも4週間)。

吸入薬

開封後も記載された使用期限まで。



「薬の色や形が変わっている」、「いつもとは違う臭いがする」、「透明だった液体に沈殿物がある」、・・・など、「?」と感じた場合は、薬の品質が変わっている場合があります。使用せずに、薬剤師にご相談ください。



市販の薬は、箱等に記載されている使用期限を目安にしましょう。ただし、使用期限は未開封の場合です。

飲み残した薬や使用期限を過ぎた薬は捨てましょう。

★薬の保管について、不明な点がございましたら
薬局の薬剤師までおたずねください★